

伊賀市の文化財 152

国特別天然記念物 オオサンショウウオ

オオサンショウウオは、大きいもので1.5mにもなる世界最大級の両生類です。日本の固有種で、岐阜県以西の本州と四国・九州の一部で生息しています。伊賀市では、水質が良く餌も豊富な木津川水系が生息地となっています。

トキなどと同じく国の特別天然記念物に指定され、文化財保護法により日本国内のすべての個体が保護されています。そのため、許可なく捕まえて飼育したり個体に触れたりすることはできません。

オオサンショウウオは、水のきれいな川の岸辺の横穴や大きな石の下などに定住していますが、春から夏にかけては産卵のための巣穴に移動します。そのため、降雨や増水した時などに農業水路や住宅近くの水路などに迷い込んでしまうことがあります。

水路などに迷い込んだオオサンショウウオを目撃した場合は文化財課へご連絡ください。現地に向き、体長・体重の



文化財課
☎ 22・9678 FAX 22・9667

計測、身体の特徴の確認、写真撮影などを実施し、近くの河川の上流に個体を放流します。

近年では、人によって持ち込まれたチュウゴクオオサンショウウオとの交雑種が県内でも発見されています。外見などからは交雑種と判別することは難しいことから、市内で発見された個体は計測時に組織片を採取し、遺伝子解析を実施しています。伊賀市では交雑種は見つかっていませんが、交雑が進めば、日本固有のオオサンショウウオが絶滅してしまう可能性があります。

市では、オオサンショウウオの生態や保護の必要性などを伝えていく取り組みとして、観察会を実施しています。観察会の開催などについては、改めて広報などでご案内します。



芭蕉翁生誕 380 年記念事業 「俳句ジュニアカップ」開催



俳句を芸術の域にまで高めた芭蕉さんの生誕380年を機に、芭蕉さんの文芸に対する姿勢や生き方を広く発信し、全国のジュニア世代が俳句に親しむ機会を創出するために、俳句作品を募集します。皆さんの、自由な発想と個性あふれる作品をお待ちしています。

- 【対象】** 小学校4年生～中学校3年生の児童、生徒
- 【募集内容】** ○本人が創作した未発表の俳句
○一人一句 ○テーマ、季節は自由
- 【応募方法】** 二次元コードから「芭蕉翁生誕 380年記念事業ページ」に進み、投句フォームから応募してください。
- 【応募期限】** 6月16日(日)
- 【部門】** 小学生部門(4～6年生)、中学生部門(1～3年生)
- 【選者】** 令和6年度芭蕉翁献詠俳句 児童生徒の部選者

- 【賞】** 各部門とも、特選1句、入選3句(いずれも賞状、副賞、記念品)
- 【表彰式】** 8月24日(土) ハイピア伊賀
- 【注意事項】**
 - 応募作品に関する権利は、応募と同時に主催者に帰属します。
 - 応募者の個人情報は本事業に関するものにのみ利用します。
 - 入賞作品は伊賀市や実行委員会の広報などに掲載する場合があります。
 - 次の場合は賞を取り消します。
 - ・類句、類想句、二重投句が判明した場合
 - ・応募者本人の作品でないことが判明した場合
- 【問い合わせ】** 芭蕉翁生誕 380年記念事業 実行委員会事務局(文化振興課内)



明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

楽しめる農業 — 農業委員会事務局 —

新規就農という言葉をご存じでしょうか。今まで農家ではなかった人が新たに農地を取得して農業を始めることをいいます。農業委員会では、新規就農する人を支援するため面談を実施しています。近年、外国につながる人がある人が新規就農するケースが増えています。農作業の経験はあるのだろうか、地域によって農地保全のルールに違いがあるが大丈夫かなど、出身国と違う日本の就農の仕組みをわかってもらえるか心配でしたが、皆さん前向きに取り組む意欲をお持ちで、その心配はとりこし苦勞だったりします。実際に話をすることで、今まで自分の中にも勝手な思い込みや偏見があったことに気づきました。外国につながる人がある人は、何も知らないだろうから始める前に日本の農業のやり方やルールを教える必要があると勝手に決め付けていました。しかし、私

の心配をよそに、面談に来てくださった人は「農作業で汗をかくとリフレッシュできます」と生き生きと話をしてくれたり、どこに何を植えるのか、収穫した農産物をどうするのかなど、楽しそうに計画を立てているようです。地域の農業の担い手が不足する中で、農業をやってほしいと、[農業を覚えたい、日本の農業を学びたいし教えてほしい]という前向きで意欲的なその気持ちを理解し大切にしないといけないと思いました。偏見や先入観、誤った認識は知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまうことがあります。そうならないためには、まず相手の意見を聞き、立場を共有することが大切です。思い込みや偏見からではなく、皆さんも自分から相手を理解しようとする気持ちを持ちましょう。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp

IGAMONO セレクション No.49



伊賀 とよさ豚

伊賀の国は豊かな自然に囲まれ、古来より農業が盛んに営まれてきた土地です。そんな伊賀の美味しい水と、伊賀で生産されたお米や厳選された食材を使用した完全配合飼料で豚を育てています。甘い脂身と霜降りの入った柔らかい肉の食感が特徴です。



とよさ(株) 代表取締役 前田 豊作さん

とよさ株式会社は、農業を中心とした安全な食材づくりを通して、豊かに暮らし、豊かに食べて、豊かに成長する喜びを提供する会社です。ひとの生きる源となる三大栄養素「糖質」・「脂質」・「タンパク質」に「ビタミン」・「ミネラル」を加えた五大栄養素を生産しています。「糖質」では無農薬合鴨農法による伊賀米を生産。「脂質」・「タンパク質」では養豚業で良質な豚肉を生産。「ビタミン」・「ミネラル」では堆肥をふんだんに使

用した甘い有機野菜を生産しています。当社では人々の健康を思い、顔の見える食材づくりを通して食の安全・安心・安定をお届けしています。また、環境保全事業として食品リサイクル飼料の製造・販売を行うとともに、グリーンエネルギーの太陽光発電やバイオマス発電を積極的に取り入れ、地球温暖化防止にも取り組んでいます。**【問い合わせ】** とよさ(株) ☎ 74-3410

■伊賀ブランド推進協議会事務局(商工労働課) ☎ 22-9669 FAX 22-9695